

「教育実習体験レポート」

[公立中学校 社会]

今回の教育実習を通して、教員としての資質・能力の重要性とその奥深さを実感する貴重な経験を得ることができた。特に、教材研究の重要性については、実習前に先生方や先輩方から繰り返し助言されていたことではあったが、実際に授業を行うことで、その意味を、身をもって理解することとなった。

実習当初は、教科書に沿って授業を進めることに意識が向いてしまい、生徒の理解や興味関心にまで十分配慮が行き届かなかった。その結果、単に教科書の内容をなぞるだけの一方的な授業となり、生徒の主体的な学びには繋がらなかったという反省がある。回数を重ねる中で、授業とは単なる知識の伝達ではなく、どうにかして生徒に「分かる」という体験をさせるかが重要であるという視点を持つようになった。そしてそのためには、教科書の本時の内容のみを深く読み込むのでは不十分であり、単元の前後関係や教科書全体の流れ、さらには社会科の中でも違う分野の話や、他教科との関連まで見据えた教材研究が必要であることを学んだ。例えば、ヨーロッパ州の地理を扱う授業では、単なる地形や気候の説明に留まらず、前単元のアジアとの比較や今後学ぶ日本の地理とのつながりを示すことで、生徒が学びを立体的に捉えられる工夫を試みた。そのためには地理的知識に加えて、歴史や社会、文化といった他分野の知識も総合的に活用する必要があると、改めて教材研究の幅と深さを痛感した。

また、実習を通して、教員の業務は授業準備だけでなく、生徒指導や支援が大きな割合を占めていることも学んだ。1年生の学級を担当させていただく中で、仲が良い故に生じるトラブルや、まだ社会的なルールを十分に理解しきれていない子どもたちの姿に日々向き合い、教室では常に細やかな目配りと柔軟な対応が求められることを実感した。しかしながら、生徒たちはとても素直で、わずか3週間という期間の中でも少しずつ成長していく様子を目の当たりにし、教職の魅力を改めて感じることもできた。

今回の教育実習を通じて、教員に求められる「視野の広さ」「探究心」「柔軟な思考力」の重要性を強く認識した。今後は、より良い授業を行っていく為に、教材研究のあり方を見直すとともに、知識の伝達にとどまらず、生徒の興味や思考を引き出す授業づくりに努めていきたい。そして、生徒の成長に寄り添い、日々変化する教育現場に柔軟に対応できる教員を目指し、努力を重ねていきたいと考える。